

2024年度版ソフトバレーボール競技規則の修正点（詳解）

2024年3月

公益財団法人日本バレーボール協会

審判規則委員会

6・9人制バレーボールの長所を生かしながらソフトバレーボールの本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿い適合したものとなるよう心掛け編集を行いました。

本年度は、監督およびチームキャプテンの権利と義務の表現をより明確にし、フットフォルトとパッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトに統一するなど、以下の修正を行いました。

なお、前年度から修正した部分は下線で表記しました。

●修正点

I. 条文の修正

第2章 チーム

6 競技参加者の権利と義務

6.2 監督の権利と義務

6.2.1 監督は各セットの開始前に、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。

6.2.2 監督は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。

6.2.3 監督は、試合中、チームベンチの記録席に最も近い位置に座っていなければならない。競技中断の間は立ち上がって指示をしても良い。

6.2.4 監督は、選手交代およびタイムアウトを要求することができる。しかし、選手としてコート内にいるときは、その権利を失う。

6.2.5 監督は、いかなる場合でも審判員の判定に対して、異議を申し出ることは許されない。

⇒監督の権利と義務の条文を加え、これまでの条項を6.2.3から6.2.5に繰り下げる修正をした。

6.3 チームキャプテンの権利と義務

6.3.1 チームキャプテンは次のことを行う。

6.3.1.1 監督が不在の場合、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。

6.3.1.2 チームを代表してトスを行い、監督が不在の場合は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。

6.3.1.3 試合終了後、公式記録用紙にサインし結果を承認する。

⇒チームキャプテンの権利と義務の条文を加える修正をした。

6.4 選手の服装

6.4.2 選手のユニフォームには胸部と背部の中央に、胸部には高さが最小限 10cm、背部

には高さが最小限 15cm で字幅は 2cm 以上のユニフォームと異なった色の 1 から 99 の番号を付けなければならない。

なお、全国大会では、年齢、性別によって番号を指定することがある。

⇒ユニフォーム番号のサイズに高さの表記を加え、使用できる番号の修正をした。

第3章 試合の準備と進行

10 選手の位置とローテーション

10.1 位置

10.1.2 サーバーによりボールが打たれた瞬間に両チームの選手は、サーバーを除きコートの内側で、それぞれのポジションに位置していなければならない。

10.1.2.2 フロントの選手とバックの選手の位置関係

各フロントの選手の片足の少なくとも一部は、それぞれに対応するバックの選手の両足よりも、センターラインの近くに位置していること。ただし、バックの選手が対角となるフロントの選手より前方に位置しても反則とはならない。

10.1.3 サービスが打たれた後は、どのように移動してもよく、プレー上の制限はない。

〈第2図 ローテーション〉

⇒重複した条文を削除、整理する修正をした。

第5章 プレー上の動作と反則

17 サービス

17.4 サービスの実行

17.4.7 サーバーのペネトレーションフォルトやサービス側のアウトオブポジションとレシーブ側のアウトオブポジションが同時に起ったときは、サービス側の反則とする。

⇒フットフォルトをペネトレーションフォルトに修正した。

19 アタックヒット

19.4 サービスされたボール全体がネット上端より高い位置にあるときに、選手がアタックヒットを完了したときは反則となる。

19.5 「ファミリーの部」では、サービスされたボール全体がネット上端より高い位置にあるとき、バックに位置した大人の選手がアタックヒットを完了したときは反則となる。

⇒ネットとボールの位置の表記を明確にする修正をした。

22 プレー上の反則

22.1 ペネトレーションフォルト

22.1.1 サービスボールを打った瞬間あるいはジャンプサービスをするため踏み切ったときに、コート内の床（エンドラインを含む）や、サービスゾーン（あるいはショートサービスゾーン）外側のフリーゾーンの床に接触していたとき。

※ 小学生競技規則3試合の進行3.2中の表記についても同様に改正した。

22.1.2 サーバーによりボールが打たれた瞬間に、サーバーを除く両チームの選手が、それぞれのコート外の床に接触していたとき。

22.1.3 センターラインを完全に越えて、相手コートに接触したとき。ただし、片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部がセンターラインに接触しているか、その真上に残っていれば許される。しかし、肘、膝、頭などの身体部分が相手コートに接触した場合は反則となる。（第8図）

22.1.4 選手が、フリーゾーンを完全に越えたとき。

22.1.5 隣接するコートに身体の一部でも侵入したとき。

⇒フットフォルト、パッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトとし条文を整理、また選手がフリーゾーンの外側や隣接するコートに入る動作の条文を加える修正をした。

22.12 ボールアウト

22.13 ダブルファウル

22.14 インターフェア

⇒フットフォルト、パッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトとしたことに伴い、ボールアウト以降の条項を繰上げる修正をした。

第7章 審判員とその責務および公式ハンドシグナル

29 線 審

29.1 2人の線審は、ネットに向かって左側のコートの両端から0.5～1m離れた位置に立ち、フラッグを使ってその任務を遂行する。

29.2 線審は、担当するコーナーでボールのイン、アウトやセンターラインを除くペネトレーションフォルトを判定し、公式フラッグシグナルで合図する。

29.3 線審は、ボールがアンテナに接触したり、その想像延長線上を通過したり、その外側を通過したとき、公式フラッグシグナルで合図する。

⇒旗をフラッグに、合図するを公式フラッグシグナルで合図するに修正し、また、判定すべき責務を明確にする修正をした。

31 主審と副審の公式ハンドシグナル（第10図）

第10図 主審と副審の公式ハンドシグナル

●ボールアウト ④

規則 21.2、22.12、26.2.2.2(b)、27.2.2.4、27.2.2.5

●ダブルファウル（ノーカウント） ⑤

規則 11.5、15.2、18.7、22.13、26.2.2.2(d)、27.2.2.6

⇒条項の修正をした。

●ペネトレーションフォルト ⑮

規則17.4.5、17.4.6、22.1、26.2.2.2(b)、27.2.2.3

補足事項 片方の手でセンターラインまたは足元を指す。

⇒フットフォルト、パッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトとし、表記内容、規則条項、補足事項の修正をした。

●アタックヒットの反則 ⑯から、失格 ⑳

⇒フットフォルト、パッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトとしたことに伴い、アタックヒットの反則以降の公式ハンドシグナルの○枠の番号を繰上げる

修正をした。

第11 図 線審のフラッグシグナル

- ボールイン ① 補足事項 フラッグを下げる。
- ボールアウト ② 規則21.2.1、22.12.3、22.12.5、22.12.6、29.2
補足事項 フラッグを上げる。
- ワンタッチ ③ 補足事項 フラッグを立て、他方の手のひらをフラッグの先端にのせる。
- ボールのアンテナへの接触
- アンテナ上方外側の通過
- センターラインを除くペネトレーションフォルト ④
規則 17.4.5、17.4.6、21.2.2、21.2.3、22.1.1、22.1.2、22.1.4、22.1.5、22.12.1、22.12.2、29.2、29.3
補足事項 アンテナ、ラインまたはフリーゾーンを片方の手で指し、頭上のフラッグを左右に振る。

⇒旗をフラッグとし、条項と補足事項の修正をした。

II. その他

規則、公式記録記入法、プロトコールおよびケースブックをより読み易く理解しやすいように表記の見直し、字句を修正した。